栗東市立教育研究所

教育研究所だより

令和3年9月15日 NO.89

先を見据えて

栗東市立教育研究所所長　髙野　崇

はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響により、予断を許さない状況が続く中でのスタートとなりました。

コロナ禍においても園・学校行事など、日々の教育活動において、感染症対策の取組を徹底し、子どもたちのために今できる精一杯の対応をしていただいている各校園の先生方、そして保護者や地域の皆様方の御尽力に心より感謝申しあげます。一連のコロナ対応は学校園にとって未曽有の出来事ではありますが、毎年の慣例行事の在り方を見直すきっかけとなったのも事実でしょう。コロナ禍はいずれ収束すると思われますが、アフターコロナにおいて、各校園がそれぞれの特色と独自性を明確に出せるであろうと期待しております。先を見据え、ピンチをチャンスに変えられる機会として、取組を進めていただきたいと願っております。

1.縦の連携

ここ数年で、保育・教育要領、学習指導要領が全面実施され、グローバル化や技術革新などによる予測が困難な社会の変化に主体的に関わり、持続可能な社会の担い手として，個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すなど、未来社会を切り拓くための資質・能力を一人ひとりの子どもたちに確実に育成することが、これまで以上に重要視されています。

また、社会からは、保育・教育の量の拡大と質の充実が求められている中で、保幼小中が連携して組織的に取り組んでいくことも重要となります。個々の教職員の指導力の向上及び教育の質の向上が期待でき、学習指導や生徒指導における各校園種の違いを比較し、それぞれの長所を取り入れた系統的・組織的な指導方法の工夫・改善を図ることを考え、保幼小中教職員の連携を深めることにより、校種間の指導の段差を解消し、個に応じたきめ細かな継続的指導を行うことで、子どもたちの不安感を軽減することができ、地域の連携が深まり、学校・家庭・地域が一体となった保育・教育活動を展開することができるのではないでしょうか。

2.これから先へ

保育・教育現場において、これまでの「先輩の背中を見て育つ」といった意図的でない人材育成だけで、成長する時代は終わりました。管理職が組織をマネジメントする中で、一人ひとりの能力を意図的・計画的に育てていく必要があります。教職員は、日々の生活や授業、児童・生徒から学ぶことができます。これは、毎日、毎時間、「計画、振り返り、改善」といった保育・授業の PDCA サイクルをきちんと行っているからです。同じこと、できることを何となく繰り返すだけでは資質・能力は向上しません。適度な「チャレンジ」の機会を設定することが大切です。チャレンジの幅が小さすぎると成長にはつながらず、大きすぎる場合には過重なストレスになりかねません。役割への期待や仕事を課した意図をきちんと伝え、適切に支援をします。成し遂げた満足感が高い役割は、負担感が少ないのです。学校の課題解決に向かう取組の中で、OJT が進んでいきます。

おわりに

このような状況の下、当研究所の役割である「教職員の資質向上と教育研究の充実」を一層充実させ、保育・教育を強力に支援していかなければなりません。Web での研修の開催など、新たな手法での取組を進めていきます。次世代を担う栗東の子どもたちが、郷土に誇りを持ち、夢や希望を抱きつつ、逞しく心豊かに育ち、未来の活力ある栗東を共創できる人づくりに向けて、栗東の教育の根幹を担う教職員の力量形成に寄与できるよう、使命を果たして参ります。

初任者研修 奮闘記①

～就学前保育教育初任者研修編～

5月17日（月）
『初任者の先生方へ』
【講師】
大宝幼稚園 岩田 芳子園長

～参加者の声を集めました～

○子どもにとっても保護者にとっても、"先生"と呼ばれる立場であるので、安心して子どもが過ごせる環境、安心して預けてもらえるよう、少しずつ信頼関係を築いていきたいです。そのためにも、先生同士の連携も大切にしながら保育をしていくことが大切だと感じました。

○同じ1年目の保育者の方と話してみて、同じ悩みを持っている人が多いと感じ、安心した部分もあった。話してみると解決策が少し見えてきたり、話を聞いてもらえるだけでもスッキリしたりすることがあり、話してみることの大切さを学んだ。

○保育者の表情ひとつや言葉ひとつが、子どもの安心につながったり、「幼稚園楽しい」「明日はこんなことやってみたい」などの意欲につながったりするということを改めて学び、少しずつでも自分に自信をもって毎日を過ごしたいなと思いました。

○それぞれの先生の悩みや園での過ごし方を聞き、共感したり、知ることができたり、研修ならではの貴重な情報交換になりました。アドバイスいただいたことを保育を行う上で活かしていきたいと思いました。

6月23日（水）
『子どもの安全と保育』
～園におけるケガ・病気への対応～
【講師】
市内看護師 山元 玲子さん
林田 めぐみさん
志村 明子さん

○エピペンの使い方や嘔吐処理などを実践を用いて研修していただき、より理解しやすく、勉強になりました。発作やアレルギー対応は、もっと深く復習しなおして、実際に起きたときに誤った行動をとらないよう注意していきたいです。

○アレルギーへの対応はとても大きな学びになりました。アレルギー児だけでなく、普段食べていない物を食べることでアレルギー症状を発症することもあると知ったので、すべての子どもの体調の変化に気づけるようにしたいと思います。

○身近なけがから、けいれんや発作が起きた際の対処を教えていただき、あいまいなままで子どもと過ごしていたら本当に危険だと感じました。どんな時も万が一を想定してシュミレーションをしておくこと、職員同士の連携の大切さを改めて学び、もう一度、子どもの状態や注意すべきことを確認し、情報の共有を行いたいと思います。

○保育の中で起こりうるけがの対処法、けいれん、アレルギーの対応を分かりやすく教えていただき、園に持ち帰り、みんなで共有しようと思いました。

6月23日（水）
『人権・同和保育とは』
【講師】
ひだまりの家
國松　恵里　主任保育士

○一人ひとりの思いをしっかり聞き、共感したり、自分の思うことを相手に伝えられる関係をつくったりして、子ども、保護者、他の先生や友だち等と関係を築いていきたいと思う。人を尊敬することも大切にしていきたいと思う。

○「人権」について学び、たくさんの人に出会って話をすることで、自分の人権感覚を磨いていきたいと思いました。日々の細かな子どもの姿や育ちをお家の方に伝えることで関係を築き、何でも安心して話してもらえるような保育士になりたいと思った。

○今まで、難しい、わからないと遠ざけて逃げてしまっていた自分がいました。「人権は教えてもらうものではない。一緒に考えるもの。」という言葉がとても印象に残っており、今の私の思うこと、感じることを私なりに伝えてみたいと、新たな目標になりました。

○子どもだけでなく、保護者や家庭の背景を知り、子どもの周りを丸ごと受け入れることが大切だと分かりました。園生活の中では、子どもの様子を見ているけれど、子どもの様子に変化があった時や子どもが園生活に困っている時には、保護者や家庭の様子にも変化がないか、困っておられないかについて知ることで、子どもの様子の原因が分かることもあると思います。送迎時の保護者の表情まで見る余裕がないと感じる日もありますが、そんな時こそ、保護者と話すことが保育のヒントになるのかもしれないと感じました。

○読み聞かせをしている時の子どものつぶやきには、子ども自身の世界があるので、その思いをつぶさないようにする保育者の声かけや関わりが大切になるのだと気づいた。

○絵本を子どもと一緒に読むことで、情緒の安定につながっていくことや前に進むことを支えることにつながっていくのだと感じました。1歳児クラスでたくさん言葉を習得していく時期でもあるので、関わりを大切にしながら、絵本を読めるようにしていきたいです。

○お話の世界と現実の世界を行き来し、子どもたちのイメージがより豊富なものになるようにたくさんいろんな本を読み聞かせしたり、保護者の方々にも啓発したりしていきたいと思う。

○子どもと一緒に、読み聞かせに向かう時間が情緒の安定に繋がること、互いをよく知る機会になることを忘れずに充実した読み聞かせの時間を作っていきたい。

7月16日（金）
『子どもの育ちと絵本の関係について』
【講師】
滋賀大学教育学部　菅　眞佐子教授

○絵本の読み聞かせは、保育の中で本当に大切なものだと改めて感じることができました。子どもがお話の世界で感動体験をして頭の中で情景を描くことができるよう、子どもの年齢や発達に応じた絵本を選ぶことも大切だと思いました。読み聞かせを通して、「人と何かを一緒にする」ということが楽しめて、それが安心感に繋がるようにしていきたいです。

図書館司書より先生にすすめたい一冊

『二平方メートルの世界で』

前田海音・文　はたこうしろう・絵　小学館

小３の主人公は、生まれた時から入退院をくりかえしている。「自分だけどうして」という思いの中、ある日ベッドのテーブルの裏に、たくさんのメッセージを見つけた。その言葉とは…。

闘病中の子ども自身が書いた物語。自分と家族、メッセージを書いた他者に対する思いに、胸がつまる。　《図書館　大矢真由美》

『わたしの気になるあの子』

朝比奈蓉子・作　ポプラ社

坊主頭の女の子がいたら、あなたはどう思いますか。このお話では主人公のひとり・詩音が、ある決意のもと坊主頭にして、周囲から猛反発にあいます。けれど、それは責められるようなことでしょうか。自分も何かしら「こうであるべき」と思ってしまっていると、気づかせてくれた本です。

《図書館　清水優》

『池の水なぜぬくの？』

安斉俊／著・絵　くもん出版

テレビ番組などで、最近よく見るようになった「池の水ぬき」。メディアでは“外来種を駆除する”とか“池に落ちているものを探す”ことばかり強調されがちですが、実はある重要な目的がほかにあります。それには、池の周りの環境が大きく関係しています。身近にある池や水路に今、何が起きているのでしょう。

《図書館　清水優》

『やわらかく、考える』

外山滋比古・著　PHP 研究所

「知れば知るほど、バカになる」「よく忘れ、よく考える」「わからないおもしろさを味わう」等、ものごとを柔軟にとらえるためのヒントとなる 150 の言葉を掲載。もっとうまく物事をすすめたいと思う人や、新しい発想を生み出したい人にお勧め。あなたの思考は凝り固まっていませんか。

《図書館　大矢真由美》

〒520-3088 栗東市安養寺一丁目 13-33　栗東市教育委員会事務局内
TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149　E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp